

入 試 年度	2026 年度	入 試 時 期	Ⅱ 期 入 学 試 験	実 施 日	2026 年 2 月 24 日
課 程	博士後期課程	研 究 科	文学研究科	専 攻 ・ コ ー ス	臨床人間学専攻教 育学専修
入 試 方式	一般入学試験		試 験 科 目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
[1]					
博士後期課程で取り組む研究の目的・対象・方法が明確に示され、専門外の読者にも理解できるよう簡潔に説明されているかを確認する。次に、研究課題の背景が先行研究や社会的・学術的文脈と結びつけて整理されているか、また既存研究との差異や着想の独自性が具体的に述べられているかを評価する。さらに、研究成果が当該分野にどのような新知見をもたらすのか、隣接分野や社会への波及可能性を含めて論じられているかを重視する。関連研究への言及は、単なる列挙ではなく、自身の研究の位置づけを示すものとして活用されていることが望ましい。					
[2]					
出題の意図を踏まえた回答の記述を求めています。					
[3]					
地域の課題解決が重視される状況について理解し、具体例を踏まえながら図書館の今日的役割を論述できているかどうかを評価した。					
【出題の意図】					
[1]					
受験者が博士後期課程で取り組む研究について、研究目的・対象・方法を明確に説明できるかを確認するものである。あわせて、研究課題の背景を先行研究との関係の中で整理し、自身の研究の独自性を適切に位置づけられるかを問うている。さらに、研究成果の学術的意義、波及性、学際性を見通し、博士論文として発展可能な研究構想を論理的かつ簡潔に表現する力を評価することを意図している。					
[2]					
近年の博物館に求められる社会的な役割の拡張を踏まえ、外部機関との連携の意義を多角的に考察する力を問う問題です。抽象的な理解にとどまらず、適切な事例の選択と分析を通じて、学術的かつ実践の視点をもって論理的に記述することを求めています。ま					

た、博士後期課程での各自の研究テーマも論述に反映されることも求めています。 〔３〕 大学院において研究を遂行するにあたり、理論と実践を結びつけて論述する力を確認している。
合否判定の方法及び基準
入学試験は文学研究科のアドミSSIONポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。 合否判定については、本研究科のアドミSSIONポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。